■表3　Jリーグのセーフガーディングポリシー

●ビジョン

誰もがお互いを受け入れ、安心して前向きに取り組むことができ、オン＆オフザピッチで、人の成長と模範的な振舞いを勧めるサッカー環境を設けます

●目的

児童や青少年、弱い立場にある大人が充実した活動を経験できる環境や雰囲気をJクラブや街クラブに設ける事にコミットします

●Jリーグアカデミークオリティースタンダード（JAQS）

セーフガーディングの評価基準

1. セーフガーディングの担当責任者を配置
2. セーフガーディングの担当責任者がリーグのワークショップに参加
3. 年次のセーフガーディング説明会
4. スタッフ、選手、保護者らの行動規範
5. セーフガーディングの窓口／報告経路
6. セーフガーディングの関連手順／手続き／窓口の表記掲載
7. スタッフの自己申告（CRB）
8. セーフガーディング関連のポリシー／ルール
9. 安全性が考慮されたスタッフ採用方針

https://www.jleague.jp/special/safeguarding/

〔北海道FAの取り組み〕

WOGを道内各地区に配置 旭川地区で独自の取り組み

北海道サッカー協会（北海道FA）では、19年から主催大会にマッチウェルフェアオフィサー（MWO）を配置するようになった。しかし、リスペクト・フェアプレー活動を組織的に進めようとしてもなかなかうまくいかなかったという。そこで2020年、ウェルフェアオフィサー部会を北海道FA内に設置した。すると、それを機に具体的な取り組みが進むようになった。要因の一つは、15ある地区サッカー協会（地区FA）の全てにウェルフェアオフィサージェネラル（WOG）を配置したこと。自身もWOGとして活動する北海道FA技術委員会の上田充士委員長は「北海道は広大であるため、各地区FAが自立しなければ活動は推進できない」とその背景を語る。現在、道内には67人のWOGがおり、年2回の連絡会議を開催して北海道全体の方針を確認するほか、各地区でのMWOの配置状況や活動内容などを共有し、セーフガーディングワークショップも実施するなど全体の活性化につなげている。

来年度からは登録チームにCWOの配置を義務付ける方針で、現在はそのシステム作りを進めているところだ。

15地区の中でも旭川地区FAでは、独自の取り組みが展開されている。21年には旭川地区FAとしてリスペクト宣言を行い（表4）、同年からポスターやリスペクト旗を作成して大会会場に掲示するなどサッカーファミリーの理解を促進。23年にはリスペクト・フェアプレー委員会を新設し、その下にウェルフェアオフィサー部会と規律・フェアプレー部会を設置した。そして、リスペクト・フェアプレーのより一層の浸透を図るため、宗谷・道北地区FAと3地区共同で2種・3種・4種・女子の登録チームに所属する選手、指導者、保護者を対象に「宣誓書」の署名活動をスタートさせた。

23年は、種別ごとに「リスペクト・フェアプレーデー」も設定して、その日に行われる全試合で両チームの選手と審判団がリスペクト旗を囲んだ写真を撮影し、それを旭川地区FAのホームページに掲載している。JFAリスペクト・フェアプレーデイズでは、各種別の大会で試合前に宣誓セレモニーを行うのだが、対戦する両チームのキャプテンだけでなく、監督、審判員、保護者代表も宣誓するところは、旭川地区ならではの特徴だろう。さらに、活動を検証するため、選手、指導者、審判員、保護者に事後アンケートを実施し、その分析結果をより良い活動につなげていこうと工夫している。

上田委員長は今年のリスペクト・フェアプレーデイズを視察し、「とても温かい雰囲気が会場全体に流れており、選手や保護者からも非常にポジティブな感想が寄せられている」と評価。旭川地区の取り組みを好事例として、北海道全体に広げていきたいと考えている。

■表4　旭川地区サッカー協会リスペクト宣言

旭川地区サッカー協会（AFA）では、リスペクトの重要性を再認識し、暴力・暴言、ハラスメント行為などのない健全なサッカー環境の実現に対する積極的な意思表示ならびに諸活動の推進が必要であると考え、2021年度理事総会で全登録チームの合意形成により、「AFAリスペクト宣言」を決議。2022年度以降、リスペクト宣言がより実効性のあるものとなるよう行動指針を示している。